

地震・津波に備える

和 歌山県は、約90年から150年周期で繰り返し発生している南海トラフの地震により、過去にも大きな被害を受けてきました。

本市においても、津波が最速で約33分で到達、最大津波高10メートルと予想されている地域もあり、甚大な被害が想定されています。被害を最小限にとどめるには、皆さんのすばい避難行動が最も重要になってきます。

そこで、防災の日を機会に、あらためて災害について考えてみませんか。

現在、テレビなどのマスメディアにより悲惨な災害の情報が皆さんのもとに届きますが、災害は時と場所を選びません。皆さんにもいつ起こるかわかりません。万が一のことを考え、自分たちはどのような行動するかなど家族、ご近所さんと防災についてのコミュニケーションをとってみませんか。



予想される津波の高さ	とるべき行動	
巨大地震の場合の表現	数値での発表(発表基準)	
大津波警報	10m超 (10m<高さ)	沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。津波は繰り返し襲ってくるので、津波警報が解除されるまで安全な場所から離れないでください。
	10m (5m<高さ<510m)	ここなら安心と思わず、より高い場所を目標して避難しましょう!
津波警報	5m (3m<高さ<5m)	津波防災啓発ビデオ「津波からにげる」(気象庁)の1シーン
	3m (1m<高さ<3m)	
津波注意報	(表記しない)	海の中にいる人は、ただちに海から上がって、海岸から離れてください。津波注意報が解除されるまで海に入ったたり海岸に近づいたりしないでください。

これだけは知っておいて

- 正しい知識を持ちましょう
 - 津波は繰り返しやってきます。第一波が最大とは限りません。(第一波が小さくても油断しない。津波が引いても戻らない。)
 - 30センチの津波でも巻き込まれる恐れがあります。
 - 弱い地震でも大きな津波を引き起こすことがあります。
 - ゆったりとした長い揺れが続く場合は、津波を引き起こす海溝型地震の可能性を考えて避難を。

津波警報が発表されたら必ず避難を

- ・あらかじめどこへ避難するか調べておきましょう。
- ・正確な情報をすばやく入手できるようにしましょう。
- ・ハザードマップを過信せず、できる限り安全な場所をめざして避難を。

津波避難3原則

- ① 想定にとらわれない
- ② 最善を尽くせ
- ③ 率先避難者になれ

片田 敏孝 東京大学教授監修

地震対策の取り組み

- 防災講座の開催
 - 各小中学校や各地区において、災害が発生した場合、どのように行動すれば良いのか、避難所での防災用資機材の使い方等を伝える講座を開催しています。
- 防災用資機材等の整備
 - 災害に備えるため防災用資機材を各避難所や備蓄倉庫等に、整備を進めています。また、各自治会で構成されている自主防災組織に対して資機材の購入費、訓練に要した経費や地区の避難路の整備費用などに補助金を交付し、地域の防災力の向上を図っています。
- 住宅の耐震化
 - 住宅の耐震診断、補強設計、改修工事不良空き家の撤去を推進するため、市からの補助金制度があります。

高い場所へすぐ逃げる！

1. 地震が来たら高い場所へ避難する
地震が起これば津波が来ると考えましょう。一旦家に帰るのではなく、「より高い」場所へ避難しましょう。



2. 津波はくり返し来る！
津波はくり返し襲ってきます。「警報」、「注意報」の解除まで気を緩めないようにしましょう。



3. 率先して避難する
緊急時は、できるだけ早く早く避難しなければなりません。周囲に避難を呼びかけつつ、自ら率先して避難しましょう。



4. 避難に車は使わない！
車での避難は止めましょう。渋滞に巻き込まれ、被害を大きくすることもあります。



東

日本大震災では、行政がすぐへの被災者を迅速に支援することが難しく、行政自身が被災して機能が麻痺してしまうことがありました。

南海トラフ巨大地震の30年以内の発生確率は70〜80%と言われてます。もしそれが発生したとき、備えはしっかりできているでしょうか？発生後、しばらくの間は、地域コミュニティで助け合い、捜索救助活動、避難誘導、避難所運営などを行うことが重要となります。

野

地区では、自主防災組織と老人会、婦人会、地区消防団員が主体となって、7月17日(土)に避難訓練を行いました。



この日は、避難行動要支援者や地区の小中学生まで、のべ170人の方々がトヨーカネット(株)和歌山工場や野みかんセンターに避難しました。野地区とトヨーカネット(株)、有田市の3者は、令和元年に災害時の協定を結んでおり、200人が一時的に避難することができます。

野地区自主防災組織の児嶋会長は「コロナ禍ということで、訓練の時間には幅を持たせ、9時から11時のいつ避難しても良いようにしました。定期的に訓練を行っているので、参加してもらうことで備えを啓発できているかなと思います。いざというときの顔を繋ぐという意味も込めています。」と話してくれました。



も

しもの時、頼りになるのは地域力。今後もし大震災が発生したとき、自分の命、地域の命を守るために。防災の日を契機に防災について、家族や近所を考えてみましょう！

問 防災安全課 Tel 22-3721